

12月えんだより

朝夕の冷え込みが厳しくなり、本格的な冬の訪れを感じる頃となりました。寒さを気にせず、園庭を元気に駆け回る子ども達の姿にこの一年の成長を感じます。12月はいろいろな行事が多く、新年を迎える準備もあり、何かと慌ただしい年の暮れですが、子ども達が健康・安全に留意しながら生活できるように心がけていきたいと思ひます。



冬に流行する感染症

インフルエンザ

症状

突然に高熱(38~40℃)が出て、3~4日間続きます。倦怠感や食欲不振、関節痛、筋肉痛などの全身症状や咽頭痛、鼻水、せきなどをともないます。通常1週間程度で症状は回復しますが、中には、気管支炎、肺炎、中耳炎、熱性けいれん、急性脳症などの合併症を引き起こす場合があります。

家庭での留意点

脱水症状を防ぐために、十分に水分補給をし、安静にすることが大切です。また、冬は空気が乾燥しているので、加湿器などを使って湿度を調節します。

インフルエンザに感染後の登園の目安は、幼児の場合、発症から5日を経過し、かつ解熱した後3日を経過してからです。それまでは登園停止となります。

ウイルス性胃腸炎(ノロウイルス感染症)

症状

ノロウイルスに感染することで発症します。おもな症状は、嘔吐と下痢です。脱水を合併することがあります。多くの場合は、1~3日程度で治癒します。

感染力が強いため、手洗いの徹底などで予防を心がけます。

家庭での留意点

嘔吐の強い場合は、絶食して水分を少量ずつ与えます。下痢がひどい時期には、乳幼児用のイオン飲料などを与えます。

感染した場合、便や嘔吐物に多量のウイルス

が含まれているので、便や嘔吐物の処理の際には注意が必要です。嘔吐物を処理する際には、使い捨てのマスク、手袋、エプロンを着用します。嘔吐物は外側から内側に向かって拭き取り、嘔吐した場所は消毒液で消毒します。また、嘔吐を処理した後は、使い捨てのエプロン、マスク、袋、雑巾、ペーパータオルをビニール袋に密封して捨てます。最後に手洗いをを行います。

登園の目安は、嘔吐、下痢の症状が治まり、普段の食事がとれるようになってからです。



RSウイルス感染症

症状

呼吸器感染症で、乳幼児期に初感染した場合の症状が重くなります。特に生後6か月未満の乳児では重症な呼吸器症状が出て、入院が必要になる場合も少なくありません。2歳以上で、2度目、3度目に感染した場合は、徐々に症状が軽くなり、軽いせきや鼻汁程度しか見られません。通常、おとなが感

染した場合には、鼻炎程度の軽いかぜ症状が見られます。

家庭での留意点

生後6か月未満の子どもの感染すると症状が重くなるため、きょうだいやおとなが感染源にならないように注意が必要です。そのため、家族内で、せきなどの呼吸器の症状が見られる場合には、せきエチケットと手洗いを心がけるほか、接触を控える方がよいでしょう。



つくし

- ・気温の変化に気をつけ、体をたくさん動かして遊ぶ。
- ・遊びの中で保育者や友だちとふれあうことを楽しむ。



れんげ

- ・生活の流れが少しずつ分かり、簡単な身の回りのことを自分からしようとする。
- ・戸外で冬の寒さを感じながら、全身をしっかりと動かしてあそぶ。



たんぽぽ

- ・簡単な身のまわりのことを自分でしようとしてきた嬉しさによって自信をもつ。
- ・保育教諭や友だちとかかわりながら、ごっこあそびやことばのやりとりを楽しむ。



にじ



ほし

- 【3歳児】・冬を健康に過ごす生活の仕方を知る。
- ・年上児のあそびを見たり教わったりしながらあそびの幅を広げる。
- 【4歳児】・冬を健康に過ごすための生活習慣を身につける。
- ・友だちの思いに気づき、話しを聞いたり伝え合ったりしながら、あそびを広げていく。
- 【5歳児】・冬に必要な習慣を身につけ、年末年始の生活に興味や関心をもつ。
- ・友だちと互いに認め合いながら、協力してあそびを進める楽しさや充実感を味わう。

12月行事予定

月	火	水	木	金	土
2	3	4	5 おもちつき お弁当日	6	7
9	10	11 歯科検診 9:30~	12 にじ・ほし組 身体測定	13 れんげ組 身体測定	14
16	17 つくし組 身体測定	18 たんぽぽ組 身体測定	19 避難訓練 (地震時の避難)	20 クリスマス誕生会	21
23	24	25	26 1号認定冬休み (12/26~1/5)	27	28 御用納め 15:00
30 年末の休日	31 年末の休日				

※年明けは1/4(土)から保育を行います。